

(様式4) 継続事業中間評価調査 (令和4年度実施事業)

評価確定日(令和5年6月7日)

事業コード			政策コード	政策名 県民を犯罪等から守るための取組						
事業名	「なまはげ」少年サポート事業		施策コード	施策名 少年非行防止・保護総合対策の推進						
			目標コード	施策目標名 少年の非行防止・健全育成活動の推進						
部名	警察本部	課名	人身安全対策課	係名	企画係					
				(tel)3073	担当課長名 鈴木 伸					
					担当者名 大越 光一郎					
評価対象事業の内容										
1-1. 事業実施の背景 (施策目的達成のための必要性)			3. 事業目的(どういった状態にしたいのか)							
<p>県内の非行少年については、昨年度と比較して減少したものの、全国ではいわゆる闇バイトを利用して特殊詐欺に担担する事件や、少年による強盗事件が相次いでおり、当県でも悪質な非行事案の発生が懸念される。また、SNS等を利用した少年の福祉を害する犯罪や不審者からの声掛け事案が後を絶たない上、児童虐待事案も高止まりの状態が続くなど、少年に関する問題は予断を許さない状況にある。こうした情勢を踏まえ、関係機関・団体、ボランティア、地域住民と連携した少年の健全育成活動及び保護対策を一層推進し、少年の規範意識や防犯意識の向上を図る必要がある。</p>			<p>スクールサポーターがパイプ役となり学校・地域・警察が一体化した取組を行うことによって、児童・生徒の非行や犯罪の被害が未然に防止され、少年を健全に育む地域社会が実現する。</p>							
1-2. 外部環境の変化及び事業推進上の問題点			4. 重点施策推進方針との関係 <input checked="" type="checkbox"/> 重点推進事項 <input type="checkbox"/> その他の事業							
<p>少年を取り巻く環境が複雑・多様化しており、地域社会や家庭の教育力の低下が懸念される現状にあり、地域社会が一体となって少年非行防止・健全育成活動に取り組む気運の向上が課題である。また、少年に関する問題に、SNSの利用が深く関わっている現状にあり、少年や保護者に対する効果的な指導も喫緊の課題となっている。</p>			5. 目的達成のための方法							
2. 住民ニーズの状況 (事業継続中に把握したもの)			①事業の実施主体 警察本部、9警察署							
①ニーズを把握した対象 <input type="checkbox"/> 受益者 <input checked="" type="checkbox"/> 一般県民 (時期: 年 月)			②事業の対象者・団体 県内の学校等の児童、生徒(幼稚園・保育園を含む)、保護者、地域住民							
②ニーズの把握の方法			③達成のための手段							
<input type="checkbox"/> アンケート調査 <input type="checkbox"/> 各種委員会及び審議会 <input type="checkbox"/> ヒアリング <input type="checkbox"/> インターネット <input checked="" type="checkbox"/> その他の手法 (具体的に)			<p>スクールサポーターが、学校や地域と連携した少年の非行防止及び立ち直り支援、学校等における児童等の安全確保対策、非行・犯罪被害防止教育の支援、地域安全情報の把握と提供等の活動を通じて、少年の非行・犯罪被害防止対策を推進する。</p>							
③ニーズの具体的内容			6. 前回評価結果等 <input checked="" type="checkbox"/> 実施又は継続 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 再検討又は縮小・休廃止							
<p>学級崩壊など学校による対応が困難でありながら、警察官の介入をためらうケースについては、スクールサポーターの校内巡回により解決しているほか、非行・犯罪被害防止に関する情報共有が円滑に図られるなど、スクールサポーターの活動に対するニーズは高くなっている。</p>			①指摘事項 特になし。							
7. 事業の全体計画及び財源			②指摘事項への対応 特になし。							
事業内訳コード	事業項目	左の説明		30年度	31年度	R2年度	3年度	4年度	5年度	全体(最終)計画
	スクールサポーターの活動に要する経費	退職した警察官等をスクールサポーターとして警察署に配置し、学校からの要請に応じて派遣するなどして、学校における少年の問題行動等への対応、巡回活動、相談活動、児童の安全確保に関する助言等を行っている。		14,017	14,018	16,173	16,961	16,546	16,731	
予算額(千円)				14,017	14,018	16,173	16,961	16,546	16,731	
財源内訳	国庫補助金									
	県債									
	その他			36	36	42	43	42	71	
	一般財源			13,981	13,982	16,131	16,918	16,504	16,660	

8. 事業の効果を把握するための手法及び効果の見込み

指標名 学校等における児童等の安全確保対策件数（年度）

指標の種類 成果指標 業績指標

指標式 学校等における児童等の安全確保対策回数を指標とする

①年度別の目標値（見込まれる効果）

指標	29年度	30年度	31年度	R2年度	3年度	4年度	5年度	最終年度
目標a	10000	11000	12000	10000	10000	10000	12000	
実績b	10654	11739	10877	12837	13396	16367		
b/a	106.5%	106.7%	90.6%	128.4%	134.0%	163.7%		
東北								
全国								

②データ等の出典 非行・犯罪被害防止教室回数（年度）

③把握する時期 当該年度中 月 翌年度 4 月 翌々年度 月

指標名 地域安全情報等の把握及び提供件数（年度）

指標の種類 成果指標 業績指標

指標式 地域安全情報等の把握及び提供件数を指標とする

①年度別の目標値（見込まれる効果）

指標	29年度	30年度	31年度	R2年度	3年度	4年度	5年度	最終年度
目標a	5500	5500	5500	5000	5000	5000	5000	
実績b	5999	4599	4651	2759	3098	2669		
b/a	109.1%	83.6%	84.6%	55.2%	62.0%	53.4%		
東北								
全国								

②データ等の出典 地域安全情報等の把握及び提供件数（年度）

③把握する時期 当該年度中 月 翌年度 4 月 翌々年度 月

指標を設定することができない場合の効果の把握方法

①指標を設定することが出来ない理由

②具体的な把握方法

③把握した効果

④データ等の出典

⑤把握する時期 当該年度中 月 翌年度 月 翌々年度 月

所管所属長による評価

		評価結果
必要性の観点	現状の課題に照らした妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> a <input type="checkbox"/> b <input type="checkbox"/> c 児童・生徒を非行や犯罪の被害から守る対策を効果的に推進するためには、学校・地域と警察が一体となった取組が必要であるが、関係機関等においては必ずしも十分な体制が確保されているとは言えない現状にあることから、パイプ役として専門性の高いスクールサポーターの活動が求められている。	<input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C
	住民ニーズに照らした妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> a <input type="checkbox"/> b <input type="checkbox"/> c 少年に関わる事件や犯罪被害については社会的反響が大きく、県民も身近な問題として捉えており、その不安感を解消するためにも、スクールサポーターの活動が必要とされている。併せて個々の事案に即応した予防警戒活動も求められている。	<input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C
	法令・条例上の要請等	
有効性の観点	事業目的の達成状況 <input type="checkbox"/> a <input checked="" type="checkbox"/> b <input type="checkbox"/> c 【理由】 スクールサポーターは、会計年度任用職員としての限られた勤務時間の中で、警察職員OBとしての専門性を生かし、年間16,367回の児童等の安全確保対策、2,669回の地域安全情報等の把握・提供を実施しており、非行防止、犯罪被害防止について有効性が認められる。	<input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C
	事業の経済性の妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> a <input type="checkbox"/> b <input type="checkbox"/> c 【理由】 スクールサポーターの活動の範囲は学校から管内一円に及び、地域の安全・安心に寄与しており、費用対効果が高いと認められる。	<input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C
	総合評価	
事業の妥当性 <input type="checkbox"/> A(妥当性が高い) <input checked="" type="checkbox"/> B(概ね妥当である) <input type="checkbox"/> C(妥当性が低い)		
対応方針 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持で継続 <input type="checkbox"/> 見直して継続 <input type="checkbox"/> 休廃止		
スクールサポーターの知識、経験を生かした訪問・巡回活動は、学校や地域における少年非行防止、子供の安全確保を図るために有効であるほか、学級崩壊等の深刻な問題にも切り込んだ対応により解決に導いている。このように、スクールサポーターは学校と地域、関係機関とのパイプ役として必要で効率的な事業であることから、事業の充実も視野に入れながら継続して推進する必要がある。		
評価結果の当該事業への反映状況（対応方針）		
政策評価委員会意見（諮問する事業についてのみ記載）		